

新たな社会(Society5.0×DX時代)を支える次世代マイスターの育成

マイスター・ハイスクールビジョン

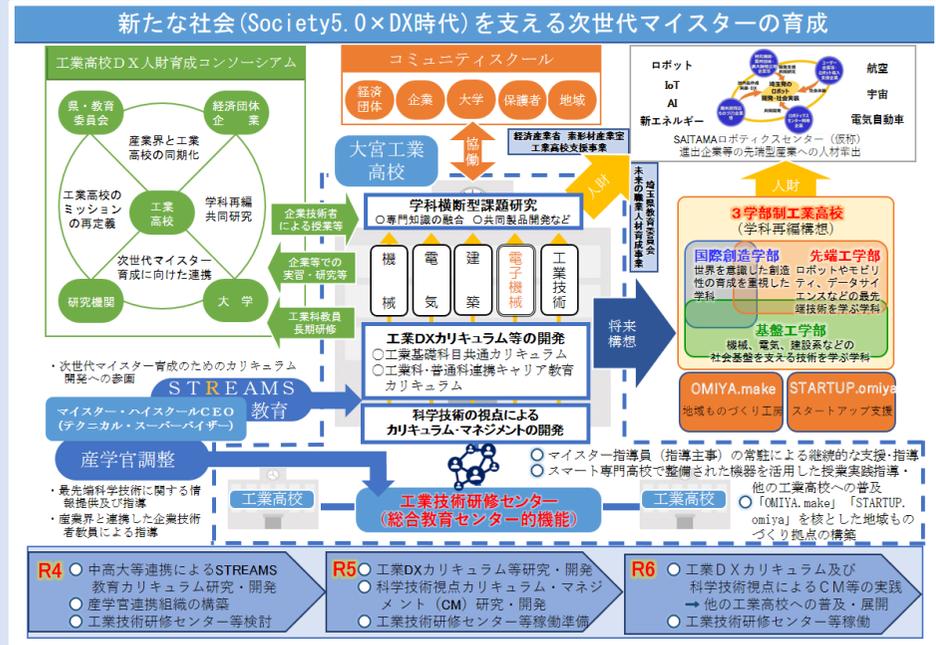
マイスター・ハイスクールCEOのトータルマネジメントのもと、実施校と産業界等（経済団体・企業・研究機関・大学）が連携・協働し、地域産業の持続的な成長を牽引する最先端の専門職業人材（次世代マイスター）を育成するとともに、産業構造の変化に即応できる実践的な指導力を持つ教員を育成し、最新の産業教育施設・設備を最大限に活用した指導実践モデルを創出・普及する。

実施体制等

- 管理機関
 - ・ 埼玉県
 - ・ 一般社団法人埼玉県経営者協会
 - ・ 埼玉県教育委員会
- 意思決定機関
 - ・ マイスター・ハイスクール運営委員会
- 事業実行機関
 - ・ マイスター・ハイスクール事業推進委員会
- 指定校内機関
 - ・ マイスター・ハイスクール校内実行委員会

事業の目標

- ① 工業DXカリキュラム等の開発
- ② 科学技術の視点によるCMの開発
- ③ 学科横断型課題研究の実践
- ④ 育成したい(されたい)資質・能力の共有
- ⑤ 工業技術研修センターの構築
- ⑥ 拠点となる実施校の将来構想の策定



新たな社会(Society5.0×DX時代)を支える次世代マイスターの育成

令和6年度の目標

目標達成に向けた調査・研究・実践

- ① 工業DXカリキュラム等に関する調査・研究・実践
- ② 科学技術の視点によるCMに関する調査・研究・実践
- ③ 学科横断型課題研究に関する研究・実践
- ④ 育成したい(されたい)資質・能力に関する調査・研究
- ⑤ 工業技術研修センターに関する調査・研究・実践
- ⑥ 実施校の将来構想に関する調査・研究・検討

目標を達成するために取り組む内容等

■ マイスター・ハイスクールCEOによるトータルマネジメント ■ 産業実務家教員との協働による授業等の実施

① 工業DXカリキュラム等に関する調査・研究・実践

- ✓ 学科・教科の連携による授業計画の策定
- ✓ 学科・教科の連携による授業の実践
- ✓ カリキュラムへの組込
- ✓ 新たな技術、技法の習得による教師の指導力向上

② 科学技術の視点によるCMに関する調査・研究・実践

- ✓ 科学技術に関する講演会の実施
- ✓ 生徒によるSTREAMS教育教材開発と授業実践
- ✓ 小中学生を対象とした「ものづくり工房」の開設

③ 学科横断型課題研究に関する研究・実践

- ✓ 学科横断型課題研究の実践
- ✓ 専門学科のカリキュラム編成の在り方に関する研究
- ✓ 普通高校を含めた学際的な学びを支援する推進校

④ 育成したい(されたい)資質・能力に関する調査・研究

- ✓ 生徒・保護者・教員・企業等の意見聴取及び集約
- ✓ コンピテンシー表(仮称)に基づく生徒アンケートの実施
- ✓ 外国語教育を充実し、国際感覚に優れた生徒の育成
- ✓ ものづくりをとおした国際交流事業の実施

⑤ 工業技術研修センター構築に関する調査・研究・実践

- ✓ 先端産業分野に関する教員研修の実施
- ✓ 生徒及び教職員の先端技術習得、研鑽
- ✓ 企業研修や地域企業連携した技術支援研修等の実施

⑥ 拠点となる実施校の将来構想に関する調査・研究・検討

- ✓ 教育内容及び取組の県民への浸透方法の調査・研究
- ✓ 中学校教員及び生徒・保護者が参集する仕組みの工夫
- ✓ 応用可能な最先端技術者養成モデルの構築
- ✓ 自走に向けた協働体制となるコンソーシアムの設置

新たな社会(Society5.0×DX時代)を支える次世代マイスターの育成

目標を達成するために取り組む内容等 《授業例》

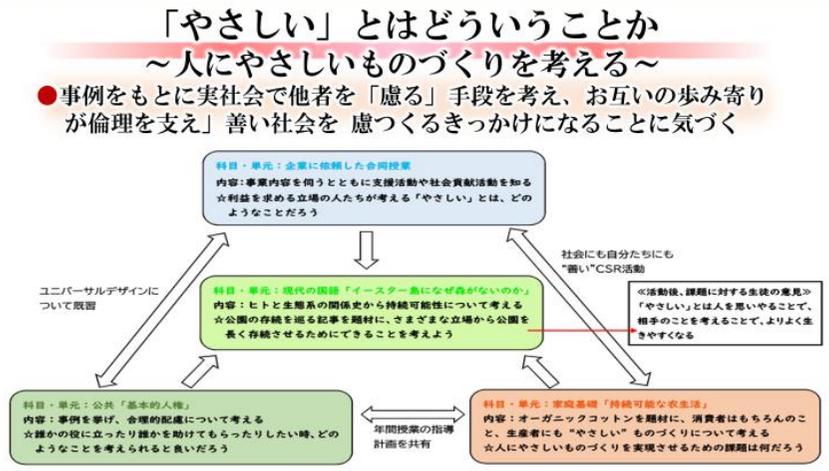
産業実務家教員との協働による授業 [事業規模] 約400時間 (予算ベース約300時間)

● 産業実務家教員との協働授業



● 学科・教科・産業実務家教員との協働による授業

■ 教科横断型授業実践事例《共通教科×企業連携授業》



● 「ものづくり工房」開設「STREAMS教育」推進



● 自走化に向けた協働体制



新たな社会(Society5.0×DX時代)を支える次世代マイスターの育成

④ 育成したい(されたい)資質・能力

次世代マイスターに求められる資質・能力 ⇒ コンピテンシー表（仮称）

- 「基礎的・汎用的能力」「社会人基礎力」などの資料に、組織における人事評価項目を加味して作成している。
- 学習目標達成度を評価するためのルーブリックとは異なり、すべてを満たすことを求めるものではない。就職後の一般的な組織においては、“こうした観点で評価される、ことを生徒や教員が知り、意識させることを目的としている。

【資料イメージ】

【資料1】		常に意識して体得する力					
育成する力		【資料2】					
規律・作法・礼法等	規律性(※1)	ビジネスパーソンの基本となる重要な力					
	ルール厳守	育成する力					
	マナー意識	表規力(※2)	節度立てて説明したり文章を意図的に表現できる力				
	コンプライアンス	発信力(※1)	自分の意見をわかりやすく伝える力				
チャレンジ精神(創造的態度)	規律性(※1)	伝達力	自分の考えを、他者に伝達する力				
		状況把握力(※1)	自身やチームの状況、物事な行動がとれる力(=空気を読む力)				
聴く力		傾聴力(※1)	相手の話をよく聞いて理解する力				
		共感力	他人の気持ちを思いやる力				
		理解力	直接または電話で相手の内容、あるいはその意図を理解する力				
		【資料3】					
		習得(修得)していく力					
育成する力	説明	上位水準	基準となる水準	NG水準	高めるための工夫		
学術的知識・技能関連(※2)	専門分野における適切な知識および技能	全工協会のジュニアマイスター区分表に掲載されるような資格取得、試験合格、コンテスト入賞など、「専門(得意分野)は〇〇です」と自信を持って言えるだけの知識や技能	全工協会のジュニアマイスター区分表でジュニアマイスターシルバー以上の点数を取得した者=技術士(第一次試験)、電気主任技術者 第三種などの上位レベルの資格保有、専門分野における関東大会出場レベル以上の技術力など	全工協会のジュニアマイスター区分表でブロンズの点数に相当する者・専門分野に関する国家試験等の合格・専門分野における及第点数以上	自信のある専門分野がない・「専門は〇〇です」と言えない	好奇心を持って取り組む・諦めない、投げ出さない	
協働に関する力	協働する力	①協働して課題に取り組むにあたって、「ゴールの共有」「時間の管理」「役割の自覚」の3つのルールを理解して、②協働における話し方・書き方のコツや③アイデアの発想・共有と収束・統合のコツを覚え、活用する	協働の3つのルールを説明でき、話し方や書き方のコツを得意としているなど、協働に必要なポイントを心得て行動している	協働の3つのルールを理解している。	自分の知識や技術のみを優先し協働に対する理解が足りない	自分の力を最大限発揮するための必要条件と考える。ゆとりには優れたエンジニアでもその技術を活かすためには協働が必要になることを理解し、協働のルールやコツを修得するように努力する	
正確性	仕事を正確に進める力	マニュアル・仕積書に忠実に仕事を進め、最終確認も怠らないなど緊張感を持って取り組んでいる	マニュアルに沿って仕事を進めることができる	マニュアルは見ないが、参考にする程度	エンジニアにとって正確性は不可欠と心得る		